

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



上小畠分教会

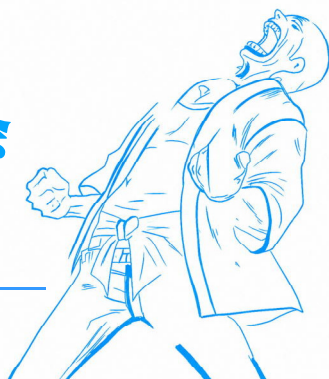
昭和10年11月4日 設立
昭和15年12月2日 鎮座祭(移転建築)
平成18年8月26日 神殿増改築

立教189年11月23日(月)午前10時(9時受付)

天理教青年会笠岡分会

青年会長様御臨席総会

～親孝心を、生きる～

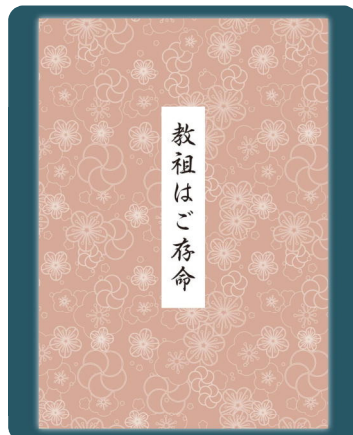


立教189年
5月号

おつとめ・式典
感話・抽選会(16時終了予定)



支部の集いであいさつされる支部長



総会記念品の小冊子

4月19日は晴天の御守護を頂き、本部中庭にて婦人会第108回総会が開催されました。

天理教婦人会 第108回総会を終えて

婦人会

員は、真柱様からのメッセージ、婦人会長様のお話を真剣に聞かせていただきました。

午後は詰所講堂にて「支部の集い」を開催しました。

スイーツバイキングで好みのデザートを選んだ後、班に分かれて総会式典のふりかえりを行い、頂戴したお言葉を胸に治めました。最後は支部長のあいさつで締めくくられました。会員の笑顔と話は尽きることなく、有意義な時間となりました。

今年の前日18日17時より記念行事として講演会が4会場で開催され、教祖のお誕生日に、「おやさま」と題したお話を聞かせて頂き、教祖をより身近に感じさせて頂くことができました。



口角の下がらない参加者たち

成人目標

ひながたをたどり

陽気ぐらしの台となりましょう

立教189年 活動方針

一、おつとめの大切さを学び

真実の心で勤めよう

一、日々に教えを実践し

おつとめを勤める人を増やそうと掲げて頂いております。そのお心に沿えるよう日々邁進しているところで

また、「おつとめの大切さを学び、共におつとめを勤める人を増やそう」と呼び掛けられている上からも、今後もおつとめ勉強会を続けていく予定です。(常任委員 中村 理恵)



選り取り見取りのスイーツたち

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・ 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・ 食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

第18回 大教会長杯
親睦スポーツ大会開催
会長室



気持ちの良いスポーツ日和の中での親睦ゲーム

ゴールデンウィーク中の好天に恵まれた5月2日、親睦を深める目的のソフトボール大会が行われました。他の行事と重なり人数は少な目でしたが、選手登録した21人がA・B2チームに分かれて、いきなりの決勝戦を行いました。最終回になるまで大差なく白熱した試合で大変盛り上がりしました。



お互いの健闘を讃えあった表彰式

▼上下分教会 山野 大地
よく晴れた晴天の中、たくさん汗をかき、打ち、走り、応援をしました！

参加者の声

な来年は出来るだけ他の行事と重ならない日程を選びたいと思います。
(実行委員 上原 志郎)

勝利したAチームには前日から大教会を訪問していたアメリカ人の2人が参戦し勝利に大きく貢献し国際的な親睦試合になりました。



来年も親睦を楽しみましょう！

▼府中市分教会 坂井 幸生
晴れの天気の中、ソフトボール大会を行うことが出来ました。参加チームは2チームでしたので1試合しかやることが出来ませんでした。自分自身は攻撃では、ほぼ塁に出塁しました。このソフトボール大会以外でバット

思いつきり身体を動かせる喜びを感じさせていただき、身も心もスッキリしました！

準備では、内野のサードでエラーがありました。サードは、右打者に近いのでたまに早い打球が来て怖いと思いました。試合の結果自分のチームが、勝つことが出来ました。おそらく守備が良かったからだと思います。年に1回このソフトボール大会以外でボールを投げたり、バットを振ることがないので楽しみではありました。また、次の日は筋肉痛になってしまいました。

を振ることがないのでバットが重く感じました。

おやすとで

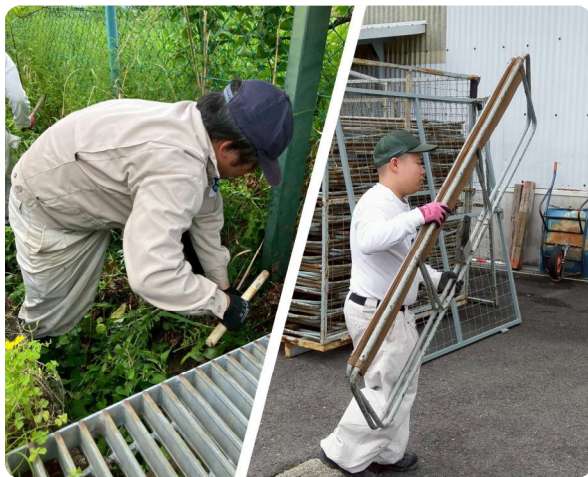
伏せ込みの汗

青年会ひのきしん隊

青年会

5月2日から8日、青年会(瀬藤大喜委員長)は「おやすとふしん青年会ひのきしん隊1週間隊」に7人で入隊させて頂きました。

境内地でのひのきしんや倉庫内での作業、大裏での農作業等、普段は取り組む事ができない様な、特別なひのきしんをさせて頂くことができました。



10代後半から30代半ばという青年会の中では若手のメンバーでの入隊で、ひのきしん隊初参加の会員さんや他分会の会員さんと共に賑やかに勇んで伏せ込みをさせて頂きました。

また、期間中には修練の時間も設けてくださってありがとうございました。

基本方針「心を澄ます毎日を。」の理解を深めたり、「おたすけ願ひ」を活用したワークを通して誰かの「たすかり」のために、今自分が出る具体的なことを定める事ができました。

青年会御臨席総会に向けて大きな弾みとなる濃密な7日間でした。

本部青年会では8月に1カ月隊(8



月3日から24日)を予定しており、ここに向けての動員も行って参ります。

(委員長 瀬藤 大喜)

オール笠岡で迎える!
11月23日!
青年会

日々は青年会活動の上にお心寄せ、ご協力頂きまして誠にありがとうございます。

去る5月7日、青年会長様御臨席総会まで200日を切りました。年頭会議での大教会長様のお打ち出しから、御巡教にて全教会に御臨席総会開催を改めてお伝えいただきました。大教会長様をはじめ先生方、誠にありがとうございます。

今の気持ちを嘘偽りなく申し上げますと、とても焦っております。

と言いますのも、心定めさせていただいている青年会員は200人、現在の参加予定青年会員は名簿上では55人です。

残り200日無い状態で150人。単純に1日1人ほどの参加の御守護が必要となります。

また、御臨席総会に向けた全教会への神名流しも35軒に訪問し、88軒残っております。

ここまで停滞してしまっているのも、全て委員長の私の責任であります。

本当に不甲斐なく申し訳ない限りです。

とは言え、下を向いている時間はもつたないのでこれから参集の声かけ、教会訪問を委員の方々と加速度的に行つてまいります!

とにかく、フェイスtoフェイスで。

動員への声掛けは直接させて頂くのが1番だと信じています。なるべく多くの会員さんと直接膝をつけ合わせてお声かけを行っていきます。これが今後御臨席総会で終わるのか?その先にもつながるのか?の境目です。

また、今回の総会は青年会員だけでなく笠岡につながる全世代の皆様と一緒に青年会長様をお迎えしたいと考えております。

オール笠岡で11月23日を迎えられる様、今後ともご協力、お心寄せ宜しくお願い致します。

(委員長 瀬藤 大喜)





第5回「伏せ込み
ひのきしん」実施
青年会

5月10日、青年会で大教会伏せ込みひのきしんをさせて頂きました。今回は10日ということもあり、月次祭で参加できない方や、東悠分教会・輝美濃分教会へ御臨席総会の呼び掛け、神名流しに行かれた方もおられ、いつも以上に少人数でのひのきしんとなりました。

毎月第1・第2日曜日にさせて頂くということ、今回は少人数ながら作業を進めさせて頂きました。作業内容は、草刈り後の場所へ防草シートを敷く作業でした。

当初は午後3時頃の終了予定でしたが、草刈りに時間がかかり、防草シート敷きは午後からの作業となりました。慣れない作業ではありましたが、無事に片側を午後5時頃までに終えることができました。

当日は日差しも強く暑い1日でしたが、熱中症で倒れる方もなく、みんな勇んでつとめさせて頂くことができました。

御臨席総会に向けて、青年会で伏せ込みひのきしんをさせて頂いておりませんが、青年会員に限らず、大教会として多くの方と共にひのきしんをさせて頂きたいと思っています。

ぜひご参加くださいますよう、よろしくお願い致します。

(委員 田中真実)

大教会だより

◎任命願

出雲川津 分教会

*前任 仙田 勉

*新任 仙田 幸次



仙田幸次氏

☆奉告祭 立教189年5月3日

立教189年4月26日承認

◎立教189年直轄教会定期巡教

- 笠岡講社 前会長 様
- 福岡 上原 繁道 様
- 高屋 大教会 長 様
- 神邊 大教会 長 様
- 島根 上原 繁道 様
- 久松 田中 隆之 様

- 鶴山 門脇 元 教
- 弥高 大教会 長 様
- 陽備 上原 繁道 様
- 金浦 上原 志郎 様
- 興明 大教会 長 様
- ひろさと 上原 繁道 様
- 陶山 今川 昌彦 様
- 芳井 上原 繁道 様
- 呉照 門脇 元 教
- 海松ヶ岡 上原 志郎 様
- 東悠 岡崎 真一 様
- 吸江 大教会 長 様
- 照陽 田中 隆之 様
- 輝美濃 岡崎 真一 様
- 新山 武内 真一 様
- 皆部 岡崎 真一 様
- 明石 今川 昌彦 様
- 上野 大教会 長 様
- 府中市 門脇 元 教
- 東城 中島 誠治 様
- 服部 前島 誠治 様
- 島中 中島 誠治 様
- 驛家 中島 誠治 様
- 葦陽 武内 正美 様
- 湯原 大教会 長 様
- 備中 今川 昌彦 様
- 神昭 武内 正美 様
- 美之郷 田中 隆之 様

錦備 大教会長様
神免 今川昌彦



5月1日のことです。「行つてきまーす！」と教区の例会へ向かおうと、車庫へ。

ところが、運転席に座っていつも通りエンジンをかけようとすると、全く

動く気配がありません。「えっ?」

鍵の電池切れかなと、慌てて予備キーを持ち出しましたが、状況は変わらず……。ルームランプの消し忘れ。バッテリー上がりでした。

すぐに学生会へ欠席の連絡。そこからはケーブルを繋ぐために四苦八苦。義弟の力を借りてなんとかチャージすることができました。救援については、ガソリン車からハイブリッド車への救援は可能でも、ハイブリッド車同士は避けるべきとのお知らせがありました。

「5分くらいエンジンをかけておけば大丈夫かな」と思いましたが、販売店の方からは「3、4時間はそのままかけておいてください」とのアドバイ

ス。ようやく夕方になり、車は動くようになりましたが、今度は、カーナビが起動しません。画面には「パスワードを入力してください」の文字。初期設定が必要になってしまったのです。

中古で購入した車だったため、パスワードが分からず、再び販売店へ相談。連休中だったため、休み明けの8日に

ようやく対応していただき、無事に復帰させることができました。一時はどうなることかと思いましたが、「神様は悪いようにはしない」、出先ではなく自宅でのトラブルだったこと、義弟という助け舟があったこと、販売店の方の優しい対応……。その日のうちに乗れるようになったことなど、感謝することばかりでした。

当たり前が有難い!
(む)

試案 天理教笠岡大教会史

昭和四十九年(立教百三十七年・1974年)
教祖九十年祭三年千日第二年目

「かさおか」誌一月号から転載
をやにお喜び頂くために
年頭会議に出席して

大教会年頭会議は、恒例によって昭和四十九年一月九日午前十時から、大教会において行われましたが、年祭活動第二年目の本年こそ、各自の身に、家に又教会に、結構なご守護を頂き、をやの御思いに応えたいものと、期待に溢れて大教会に帰らせて頂いたのは、大教会役員、つとめ人をはじめ教会長、布教所長その他四百人を上回る数でした。

大教会長様の年頭のごあいさつは、真柱様のと季春に対する御思いがどこにあるか、その思いを戴いて本年の歩みを如何に進めて行くかという事に終始したのであります。

—をやの思いを戴いて本年の足取りをさせて頂くべく、更に過去一年の事を振り返り、思い返して大教会の歩みを固めたい。

そうして昭和四十七年十月二十六日秋季大祭の神殿講話、翌十一月二十六月月次祭後、会議 においてのごあいさつ、そして明けて昭和四十八年一月春季大祭に御発表頂いた論達第二号及びその時の神殿講話、更に昨年十月秋季大祭の際の神殿でのお話、引き続き翌二十七日、年祭準備委員へのお言葉、そして本年一月五年頭のごあいさつと、真柱様の御心そのままにお聞かせ頂いたのであります。

—年祭活動は一昨年即ち昭和四十七年十月、秋の大祭に真歯苛様のお言葉を戴いた時から始まっている——との大教会長様の一言を聴いて、胸に五寸釘を打たれるような感じがしたのは私だけだったでしょうか?

恥ずかしい事ですが、年祭活動は論達のご発表のあった昭和四十八年一月二十六日からだと思っておりました。この一つの事を考えただけで、折角有り難いと季春を迎えながら、うっかりと目を過ぎた事が悔やまされてならないと同時に、言われても話されても、自分の思い通りにしか受け取っていない自分を今更の如く反省したのであります。

——私達とはかく、をやの思いを解せないで、私達の成人の足りなさに気づかないで、素直になれず、ともすれば、をやが私達の思いとかけ離れている事を不平、不足に思い勝ちである。教祖が親紙様の思召通りに歩まれたのがひながたであるならば、私達は何よりもまず、素直にをやの思いを実行する意志を持たねばならない。更に、年祭の由来が、親紙の思いと我々人間の思いの違いから生じた事、史実に基づいて言うならば、教祖にお元氣になって頂きたい上からの思いが、その当時の人々の心とは逆に、教祖は口を利かれなくなつた。即ち、御身をお隠しになつたという事実から考へるならば、年祭を迎える私達道の子のすべき事の第一は「心の成人」であり、具体的には教会内容の充実こそが、年祭活動の第一眼目でなければならぬ。——

との真柱様のお言葉を、私達にお伝え下さいました。真柱様の一番お心にかかっている事は、それぞれの教会内容の充実であり、各教会がぢばの理を戴いておつとめ奉仕人を揃え、一つの役割も欠ける事なく奉仕させて頂くという事なのであります。

大教会長様よりお聴かせ戴く、その時々々の真柱様のお話は、まさに教会内容を充実せよ、言葉を替え表現を替へてお話し頂いているのであります。

そして、事情教会と新設教会という上から論して下さり、

——年祭は私達の飛躍の台であり、積極的に世界たすけに乗り出して下さつたのだから、よふぼくは救け一条に徹底する事によって、教会内容は充実される。教会長は、その者から分かりてくれとのお言葉より教会内容の充実につとめて頂きたいと仰せ下さり、

——現在の立場で、その責任を全うする事、自分の与えられたつとめをつとめ上げるといふ事に私の気持ちがおこめられている。つとめ上げるといふ事は、別の言葉で言うならば、目的達成までつとめるといふ事であり、十分満足するまでにつとめるといふ事である。お互いに目指しているのは、教会内容の充実である、とお話し頂き、

更におやさどふしんに言及され、
——おやさどふしんはさせて頂かねばならない。しかし私の心にかかっているのは、各地の教会が充実さえするならば、期せずしておやさどやかたの上には、その喜びの姿が見えてくると信じている、とまで縷々お述べ下さっているのであります。

大教会長様にお聞かせ頂くまでもなく、お互いに教会内容の充実という事は耳にたこが出来るまで聴かせて頂き、合い言葉のように話していましたが、成人の鈍さの故に、又多忙な感じのする毎日の故に、ついつつかりと過ぎしてしまいましたが、真柱様がこのように、機会ある度に教会内容の充実という眼目についてお話し頂いている事を思うとき、お互いは、この事に性根を入れてつとめさせて頂かねばなりません。

さて本年の心定めは、

1、よふぼく一人が新しい方(未信者)を連れてのおぢばがえり。つまり大教会としては二万人のおぢばがえり。

2、かしものかりもの袋の六割の定着。これは教会教費金と同じく、よふぼくは一月千円のつとめをさせて頂くのが、当然の義務とする事。そうして新たなよふぼくは必ずつとめさせて頂く。

3、布教所は初席者、よふぼく各二人以上のご守護を頂く。

4、教会は所属布教所の心定め数を除いて、初席者、よふぼく各五人以上、修養科生三人以上、教人登録二人以上のご守護頂く。

5、御奉公は一億五千万円、三月、九月、十二月と仕切つてつとめる。以上であります。

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には一れつ子供の陽気ぐらしを楽しみにこの世と人間をお創造り下されたばかりではなく 旬刻限の到来と共に元のいんねんある教祖を月日のやしろとお定めになり ひながたをお示し下されて陽気ぐらしへとお導き頂いております事は 誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に 人間が陽気ぐらしをするのを見て神も共に楽しみたいとの親の思いにお応えするべく たすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております その中先日十八日は教祖二百二十八回目のお誕生日 加えて十九日第百八回婦人会総会には 御存命の教祖にお喜び頂きたいと 誘い合わせておぢばがえりをさせて頂き共に喜ばせて頂きました

そして今日の吉日は 四月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一人に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道のこどもたちが 相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝む真実の姿をご覧下しまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は五日に第七回目となる支援バザー桜まつりを 満開の桜の地域の方を含めて約四百三十名の来場者を迎えて賑やかに開催させて頂きました 来る二十九日には全教一斉ひのきしんデーがございます 報恩感謝と喜び一杯に 勇んでつとめさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 親孝心一筋に御恩報じに徹する皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に自由の御守護を賜り よろづ互いがたすけ合う陽気づくめの世の状に一日も早く建て替わりますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十九年 四月月次祭 祭典役割表

祭主		扈者		講話		指図方		賛者	
大教会長様	中島誠治	森本忠善	山田敏教	六月講話	縦の伝道講習会	赤木素志	上原繁次	上原繁道	上原繁道
役割		区分		座りづとめ		前半		後半	
岡崎真一	佐藤道孝	門脇元教	岡崎真一	大教会長様	上原繁道	前会長様	上原繁道	大教会奥様	上原繁道
山野弘実	田林久嗣	横山逸郎	山野弘実	前会長様	吉岡誠一郎	虫明立生	吉岡誠一郎	前奥様	前奥様
上原繁次	中村剛史	谷内秀彦	上原繁次	虫明立生	山野弘実	武内正美	上原繁次	大教会奥様	大教会奥様
杉原善朗	田中隆之	上原善浩	杉原善朗	門脇加津	森本忠善	室悦子	杉原善朗	前奥様	前奥様
谷内秀自	赤木素志	杉原善朗	谷内秀自	中村初美	田中つかさ	田中つかさ	谷内秀自	前奥様	前奥様
中村剛	内海史郎	高木昭祥	中村剛	吉岡八恵	田中つかさ	田中つかさ	中村剛	中村剛	中村剛
中島誠治	佐藤真孝	浅野明教	中島誠治	田中初美	田中つかさ	田中つかさ	中島誠治	中島誠治	中島誠治
吉岡壽	山田敏教	上原繁次	吉岡壽	田中初美	田中つかさ	田中つかさ	吉岡壽	吉岡壽	吉岡壽
浅野明教	岡崎真一	岡田誠	浅野明教	田中初美	田中つかさ	田中つかさ	浅野明教	浅野明教	浅野明教
武内正美	谷内美知子	三島照美	武内正美	田中初美	田中つかさ	田中つかさ	武内正美	武内正美	武内正美
岡崎豊子	上原千枝子	横山小智榮	岡崎豊子	田中初美	田中つかさ	田中つかさ	岡崎豊子	岡崎豊子	岡崎豊子
内海安子	高木孝子	山野なつ	内海安子	田中初美	田中つかさ	田中つかさ	内海安子	内海安子	内海安子